

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

2024 年 3 月 5 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0054

所在地 東京都世田谷区桜丘5-27-18 ハイツエミール206

評価機関名 合同会社フェアリンク

認証評価機関番号

機構 12 - 213

電話番号 03-6379-1449

代表者氏名 井上浩之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号	
	①	井上浩之	福祉、経営	H0201050	
	②	湊 岳美	福祉	H0801018	
	③	田鹿 勉	経営	H1301026	
	④				
	⑤				
福祉サービス種別	障害児多機能型事業所			☐ 食事を対象にする	
評価対象事業所名称	KIZUNA調布			指定番号	1354200402
事業所連絡先	〒	182-0024			
	所在地	東京都調布市布田6丁目25番8号			
	TEL	042-444-1980			
事業所代表者氏名	山寄綾子				
契約日	2023 年 7 月 10 日				
利用者調査票配付日(実施日)	2023 年 8 月 1 日				
利用者調査結果報告日	2023 年 9 月 12 日				
自己評価の調査票配付日	2023 年 7 月 11 日				
自己評価結果報告日	2023 年 9 月 18 日				
訪問調査日	2023 年 9 月 27 日				
評価合議日	2023 年 11 月 5 日				
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査の一環として、担当評価者が一定時間、事業所に滞在し、実際のサービス提供場面の観察をおこなった。子どもたちに緊張感を与えないよう、隣接の事務室からガラス越しに観察した。				

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024 年 3 月 5 日

事業者代表者氏名 代表理事 青木 伸二郎

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)「運動」×「療育」で子ども達の眠っている可能性を広げていきたい(理念) 2)小さなことでも誠意をもって真摯に取り組める人間になろう(行動規範) 3)企業の利益だけを優先するのではなく、社会の必要性を判断し行動しよう(行動規範) 4)上司に従順であるのではなく、物事の真実、正しいものを見極め行動しよう(行動規範) 5)「ありがとう」の言葉とともに、たくさんの人々を笑顔にしていこう(ミッション)
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	(1)職員に求めている人材像や役割 ・素直であること ・ポジティブであること ・勉強熱心であること ・感謝の気持ちを持つこと ・チームでの役割を認識し、人の嫌がる仕事、地味な仕事こそ、積極的に行えること ・否定的な発言は避け、肯定的な発言、考え方を持ってチームに貢献すること
	(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 私たちは、これからたくさんの人にお会いしていきます。私たちが大切にするのは、相手の立場に立って思いやる気持ち、一人ひとりができることを精いっぱい行い、そして自分の行動に責任をもち、相手を勇気づけてあげること。いつか「ありがとう」の言葉とともに、たくさんの人々を笑顔にしていこうことが、私たちの使命であると考えています。

調査対象

調査開始時点での登録者のうち、利用実績のある保護者全員。ただし対象は世帯とし、複数の子どもが通っている場合は年齢が最も低い子どもに対するサービスについて回答を求めた。

調査方法

書面による無記名式のアンケート調査を実施。共通評価項目に対し「はい」「どちらとも言えない」「いいえ」「非該当・わからない」の4つの選択肢を用意。依頼状、調査票及び専用の返信用封筒を事業所経由で保護者に郵送し、記入後、評価機関に直接返送してもらった。

利用者総数
利用者家族総数（世帯）

17
17

共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合（％）

アンケート	聞き取り	計
17		17
12		12
70.6	0.0	70.6

利用者調査全体のコメント

共通評価項目全体で「はい」の回答の割合が約85%に達している。中でも問1(子どもの身体機能・健康の増進)、問2(興味・関心に沿った活動)、問7(共有スペースの清潔・整頓)、問8(職員の接遇)、問11(子どもの気持ちの尊重)、問14(支援内容の説明)では回答者の全員が「はい」を選択している。一方、「どちらとも言えない」と「いいえ」の回答を合わせた割合が最も高かったのは問6(家族の精神的サポート)で、約43%に上っている。また、問10(子ども同士のトラブルへの対応)と問16(外部の苦情相談窓口の案内)では「非該当・わからない」の回答割合がそれぞれ約33%を占めている。そのうち問10では、自由記述に「トラブルがないのでわからない」とのコメントが複数寄せられている。共通評価項目に加え、総合的な満足度を5段階の選択肢を示して尋ねたところ、最上位の「大変満足」が12人中6人、以下、「満足」が6人で、「どちらとも言えない」「不満」「大変不満」の回答はなかった。また、利用者調査の一環として、担当評価者2名で療育場面の観察を行った。手厚い職員体制のもと、子どもたちが遊びの要素を取り入れた運動療法を楽しむ姿が確認できた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所に通うことが、子どもの身体の機能や健康の維持・促進の役に立っているか	12	0	0	0
実際のアンケート調査票の質問文(以下、Q): 事業所に通うことが、お子さんの身体機能や健康状態に良い影響を与えていると思いますか				
2. 事業所での活動は、子どもが興味や関心を持てるものになっているか	12	0	0	0
Q: 事業所での活動は、お子さんが興味や関心を持てるものになっていると思いますか				

3. 事業所に通うことが、子どもの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っているか	9	2	0	1
Q: 事業所に通うことが、お子さんの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っていると思いますか				
4. 事業所に通うことで、子どもに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についているか	10	2	0	0
Q: 事業所に通うことで、お子さんに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についてきたと思いますか				
5. 子どもの様子や支援内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有できているか	11	1	0	0
Q: お子さんの様子や、支援の内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有ができていますか				
6. 家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っているか	7	3	2	0
Q: ご家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩みや進路の相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っていると思いますか				
7. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	12	0	0	0
Q: 事業所の生活スペースは清潔で整理された空間になっていると思いますか				
8. 職員の接遇・態度は適切か	12	0	0	0
Q: 職員の言葉遣いや態度、身だしなみなどは適切だと思いますか(職員としてふさわしいと思いますか)				
9. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	10	0	0	2
Q: お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの職員の対応は信頼できますか				

10. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	8	0	0	4
Q: 子ども同士のトラブルやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか				
11. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	12	0	0	0
Q: 職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか				
12. 子どものプライバシーは守られているか	9	2	0	1
Q: お子さんやご家族のプライバシー（他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと）を職員は守ってくれていると思いますか				
13. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	11	0	0	1
Q: お子さんの支援に関する計画作成したり見直しをする際に、事業所はお子さんやご家族の状況や要望を聞いてくれますか				
14. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	12	0	0	0
Q: お子さんに対する支援の計画やサービス内容など、事業所での生活についての職員の説明は、わかりやすいと思いますか				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	10	0	0	2
Q: 事業所に対して不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員はきちんと対応してくれていると思いますか				
16. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	7	1	0	4
Q: 事業所の利用に関して何か困ったことがあったときに、外部の窓口（役所や第三者委員など）にも相談できることを職員はわかりやすく伝えてくれましたか				

調査対象

対象は調査開始時点の登録者のうち利用実績のある利用者全員。回答者の内訳は、利用者(子ども)本人が家族と相談しながらの回答が約30%で最も多く、続いて、家族が本人の気持ちを推察しての回答が25%、利用者本人による回答も約23%を占めている。

調査方法

事業所との協議により、書面による無記名式のアンケート調査を実施した。アンケートでは、依頼状、調査票及び専用の返信用封筒を事業所経由で保護者に配付し、記入後、評価機関に直接返送してもらった。

利用者総数

54

共通評価項目による調査対象者数

54

聞き取り

計

共通評価項目による調査の有効回答者数

44

44

利用者総数に対する回答者割合(%)

81.5

0.0

81.5

利用者調査全体のコメント

共通評価項目全体で「はい」の回答の割合が約79%に達している。中でも、問3(相談対応)、問5(職員の接遇)、問8(子どもの気持ちの尊重)、問11(支援内容の説明)、問12(不満・要望等への対応)では回答者の9割以上が「はい」と回答している。一方、「どちらとも言えない」と「いいえ」の回答を合わせた割合が最も高かったのは問13(外部の苦情相談窓口の案内)で、約34%に上っている。問13は「非該当・わからない」の回答割合も約36%と最も高くなっている。

・共通評価項目に加え、総合的な満足度を5段階の選択肢を示して尋ねたところ、最上位の「とても良い」の割合が約64%、以下、「少し良い」が約27%、「どちらとも言えない」と「あまり良くない」がそれぞれ2.3%、「ぜんぜん良くない」の回答はなかった。

・利用者調査の一環として、担当評価者2名で療育場面の観察を行った。手厚い職員体制のもと、子ども一人一人の課題に合わせた運動療法やゲーム性のある集団遊び等の活動に子どもたちが楽しみながら取り組む姿を確認することができた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所での活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	39	5	0	0
アンケート調査票の質問文(実際は漢字にふりがなを付している。以下、Qと表記)：「KIZUNA調布」でのかつどうやあそびは、おもしろいですか(自分に合っていると思いますか)				
2. 事業所での仲間との関わりは楽しいか	37	5	1	1
Q:「KIZUNA調布」で、ほかの利用者といっしょにすごす時間は楽しいですか				

3. 職員は、話し相手や、相談相手になってくれるか	40	2	1	1
Q: 職員はあなたに話しかけたり、あなたの相談にのってくれたりしますか				
4. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	35	5	0	4
Q: 「KIZUNA調布」では、食事をする場所やトイレなどはいつもきれいで、かたづいていると思いますか				
5. 職員の接遇・態度は適切か	41	2	0	1
Q: 職員のことばづかいやたいど、身だしなみなどは、きちんとしていると思いますか				
6. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	34	6	0	4
Q: あなたがけがをしたり、病気などでぐあいが悪くなったときに、職員に安心してまかせることができますか				
7. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	36	3	0	5
Q: ほかの利用者との間のけんかや、子ども同士のいじめなどがあった場合、職員はきちんとかいつつしてくれると思いますか				
8. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	41	1	1	1
Q: あなたは、職員があなたの気持ちを大切にしてくれていると思いますか				
9. 子どものプライバシーは守られているか	32	4	0	8
Q: あなたがほかの人に知られたくないひみつのことを職員はいいしょにしてくれていると思いますか				

10. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	36	4	0	4
Q:「KIZUNA調布」での生活で、あなたが目標とすることを決めるときに、職員はあなたの気持ちや要望を聞いてくれますか				
11. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	40	2	0	2
Q:職員は、あなたに対して、どのような支援や手助けをしてくれるのか、わかりやすく説明してくれましたか				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	41	2	0	1
Q:あなたが「もっとこういうふうにしてほしい」とか、「こういうことはいやだから、やめてほしい」と思ったことを職員に伝えたときに、職員はあなたの話をきちんと聞いて、考えてくれると思いますか				
13. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	13	10	5	16
Q:「KIZUNA調布」のことで何かこまったことがあったときに、職員以外の人（役所や外部の相談係の人など）にも話しができることをわかりやすく教えてくれましたか				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	● あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	● あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○ 非該当
	カテゴリー1の講評	
	事業所の特性を活かし利用者の希望とマッチさせることでサービスの強みを形成している 当事業所は運動療育を軸に子どもの苦手意識の克服を図るとともに自己肯定感を高め、もって子どもが持っている可能性を広げることを理念に謳っている。利用者の要望へのマッチングとともに他との差別化を図るために、週末の営業や児童が楽しんで通うことのできるサービスの工夫等の取り組みをスピード感を持って展開する中で、保護者の高い満足度を維持している。送迎を行わないことにより、人員をサービス提供に集中するといった経営形態を経営層がリードしながら、サービスの強みを形成している。	
	法人全体のコンプライアンスに関わる取り組みの方針や実施状況の確認をおこなっている 2023年3月に法人が運営する同形態の事業所が1つ増え、現在は都内に4か所の教室を展開している。法人として、行政を含む関係機関に対する説明責任を重視し、法人代表者と各拠点の管理者・児童発達支援管理責任者、法人事務局及び必要に応じて専門職等が直接もしくはオンラインで会議を開いて、法人全体のコンプライアンスに関わる取り組みの方針や実施状況の確認をおこなっている。	
	保護者会を開催し、利用に関する重要な決定事項の他、日頃の療育のねらい等を説明した 昨年度の12月に保護者会を開催し、9人の参加があった。事業所からは法人代表者と管理者兼児童発達支援管理責任者及び療育を担当する職員が出席し、改めて自己紹介を行うとともに、日頃の療育で職員が気をつけていることなどを説明した。普段おこなっている療育のメニューのねらい等、日々の送迎の際には時間をとって十分には話せなかったことを保護者に伝える機会となった。保護者会を今後も同様の形で継続するかはまだ決めていないということであったが、信頼関係を深める効果は期待できるため、可能な方法での定期化に向けた検討が期待される。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		
評点(○○○○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	
○非該当		
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	
○非該当		
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	
○非該当		
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	
○非該当		
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	
○非該当		
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	
○非該当		
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		2/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		
評点(●●●)		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	
○非該当		
○あり ●なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	
○非該当		
○あり ●なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	
○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		
評点(○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	
○非該当		
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	
○非該当		
カテゴリー2の講評		
事業所が目指していることの実現に向けた中長期のビジョンや計画の作成が期待される		
当該事業は定期的に国による報酬や制度の改定があり、それによって事業運営やサービスの提供体制等に大きな影響を受けることとなる。経営層は改定の動向や情報を注視し、事業の規模やサービス提供体制の変更等、事業継続に向けて様々な経営判断をおこなっていくこととなる。その経営判断にあたっては、事業所が目指していることの実現に向けた中長期のビジョンや、それを踏まえた事業の計画及び予算編成等も重要な要素となる。今後は中長期及び短期の事業計画の作成と計画を踏まえた予算の編成等に向けた検討が期待される。		
事業の安定的な継続に向けた数値目標を設定し、その実現に組織的に取り組んでいる		
毎年の実施と結果の公表が義務付けられている自己評価について、保護者に対するアンケート調査と職員による自己評価の集計結果を法人のホームページに掲載している。保護者の意見を踏まえた対応と併せ、職員の振り返りから抽出した課題に対する取り組みの目標等が記載されており、改善に向けた事業所の姿勢が伺える。また、事業を安定的に継続していくための数値目標を経営層が設定し、職員に明示している。毎月、指標の推移を事業所にフィードバックしながら、目標達成に向けた組織的な取り組みの推進を図っている。		

3 経営における社会的責任			カテゴリー3
サブカテゴリー1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準项目实施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。		○ 非該当
サブカテゴリー2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準项目实施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○ 非該当
サブカテゴリー3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準项目实施状況	4/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇●)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○ 非該当
○ あり ● なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○ 非該当

	カテゴリー3の講評
	福祉従事者として守るべき倫理等を組織として共有するように取り組んでいる 新任職員に対する研修用のテキストを用いて、発達障害への理解に加え、事業所として支援のあり方や子どもの理解と関わり方、行動指針等を説明し、福祉従事者として守るべき倫理等を説明している。また、虐待防止の取り組みとして、全職員に向けての権利擁護研修の実施に加えて、虐待防止セルフチェックを年2回義務付けるなど、組織的な取り組みが行われている。身体拘束や虐待に関するグレーゾーンに関しても、法人内の虐待防止委員会を通じて、積極的に話し合いが行われている。グレーゾーンに関しては、今後、判断基準の明示が必要と認識している。 利用者の意向を把握し、組織的な検討を通じて改善につなげるよう取り組んでいる 毎年、事業所の自己評価の一環として、保護者に対するアンケート調査を実施し、その結果を公表している。公表内容には、アンケートに寄せられた保護者からの意見に対する事業所の対応について、職員間で検討した結果も掲載されている。また、日々のクラスごとの療育の後に保護者に対する個別のフィードバックの時間が設けられており、職員と保護者の意見交換の場となっている。活動終了後には毎日ミーティングが行われ、その日の振り返りや評価に加えて、子どもや保護者からの要望や意見について共有が図られ、改善につなげる検討が行われている。

4	カテゴリー4		
	リスクマネジメント		
	サブカテゴリー1(4-1)		
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/5
	評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(○○○●●)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
	●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
	○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
	○あり ●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解し対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当	
サブカテゴリー2(4-2)			
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(○○○●●)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当	
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当	
○あり ●なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当	
カテゴリー4の講評			
想定されるリスクに備え、マニュアル作成やヒヤリハット、環境整備等に取り組んでいる 送迎をおこなっていないため、室内の療育活動及び週末に市外のフットサルパークで行う活動の時間中に予測される事故やケガ等の予防対策と発生した場合の対応を中心に、業務マニュアルの作成やヒヤリハット等の取り組みをおこなっている。療育室は死角や段差のない空間で、活動に使用する備品等の収納場所を決め、子どもの目に触れないように工夫しながら、整理整頓に努めている。また、感染症防止の観点から、子どもが触れる場所や備品等の毎日の除菌・清掃の他、嘔吐物を処理する際に使用する薬剤等の一式を用意し、迅速な対応に備えている。 大規模災害等を想定した事業継続計画の作成と関係者に対する周知が期待される 新型コロナウイルス感染症の拡大局面では、早期にオンラインによるサービス提供の体制を整え、事業の継続を図ってきた。また、集合住宅の1階に位置しているロケーション上のリスクに備えた保険への加入により、上階で発生した事故による損害が最小限に抑えられた事例もあった。今後は大規模災害等の発生時における事業の継続または早期再開に向けた計画を早急に作成したうえで、職員、利用者及び関係機関等に対する周知を図る取り組みの推進が求められる。加えて、市と協議のうえ、二次避難所の開設・運営に必要なソフトウェアの準備が望まれる。 個人情報の保護に関する規程を整備し、職員に対する周知を図ることが期待される 利用契約時に利用者から預かる個人情報の利用目的を説明したうえで、使用同意の手続きを交わしている。個人情報の管理にあたっては、書類は鍵付きの書庫で保管し、パソコン等で管理される電子ファイルに関しては、法人内の他の拠点事業所にサーバーを設置し、階層化されたフォルダにアクセス権限を設定するなどのセキュリティ対策を講じている。サーバーのデータは毎月バックアップを取っている。今後、法人として個人情報の保護に関する規程を定め、職員に対する周知とルールの徹底を図ることが期待される。			

5 職員と組織の能力向上			カテゴリー5
サブカテゴリー1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	9/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇●)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○ 非該当
○ あり ● なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇●●)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○ 非該当
○ あり ● なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○ 非該当
○ あり ● なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○ 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 3 / 3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評		
法人全体で機能訓練や心理等の専門職を配置し、質の高い療育体制の構築を目指している 基準を超えた人員を配置しているが、専用サイト等による求人は常時おこなっている。採用の基準は専門資格を有し必要なスキルを身につけた人材としている。現在は常勤の児童発達支援管理責任者と保育士、児童指導員及び理学療法士に加え、法人内に心理職を置いて、質の高い療育体制の構築を目指している。今後、法人全体で専門職同士のノウハウの共有やスキルアップを図るとともに、リーダー層の計画的な育成に向けた仕組みの検討が期待される。 福利厚生充実の充実を図るとともに職員が受講を希望する外部研修の参加に便宜を図っている 正規職員は一日6時間勤務を基本とし、時間外労働は月10時間以内で副業を認めるなど、柔軟な働き方を可能とする中で人員を確保してきた。誕生日休暇や5日間の連続休暇に加えて、土・日・祝日手当や借り上げ住宅制度を導入するなど、福利厚生充実を図っている。また、自己啓発を職員研修の基本に据え、外部研修の受講について様々な便宜を図っている。今後、職員の定着を図るためにも、職員一人一人のキャリアアップに向けた意向を把握するとともに、成長に向けた課題を育成責任者と共有し、組織として支援していく仕組みの検討が期待される。 研修での学びの共有や業務分担の明確化により、組織の活性化と能力向上を図っている 職員が受講を希望する外部研修について、事業に関係するものであれば勤務の扱いとして参加でき、また、法人より一定の範囲内で受講費用の助成を受けることができる。その際は報告書を提出して、職員間で研修での学びを共有している。今回実施した職員の自己評価では、業務の役割分担を明確にしたことで職員間の連携が図りやすくなり、支援の質の向上につながったとの声が寄せられている。実際のミーティングや療育の場面観察から、職員間のチームワークが機能し、事業所の強みを形成している様子が確認できた。		

7		カテゴリー7
事業所の重要課題に対する組織的な活動		
サブカテゴリー1(7-1)		
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)		
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 事業所の目指す療育の質をさらに高めるために、専門職、とくに理学療法士の採用が必要不可欠として、2022年春から採用活動を開始し、半年以上かけて応募者の見学の対応と説明を重ねるとともに給与体系の見直しを図る中で、2023年1月に法人で初めて常勤の理学療法士の採用を実現した。見学の際は参加者に事業内容や法人の理念を伝えるとともに、実際の療育の場面を見てもらうことで、採用後のスムーズな業務の開始につなげることができた。		
目標の設定と取り組み	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった	
取り組みの検証	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
検証結果の反映	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 運動に苦手意識のある子どもを対象としたプログラムを組み立て、実際に動かしていくにあたり、理学療法士の専門性は事業所にとって貴重な戦力となっている。保護者会の場で、普段おこなっている療育のメニューのねらいや専門的なアプローチの方法等を説明する機会を設けたことで、自宅でも取り組んでみようとする子どもの積極的な姿が見られるようになった。また、業務の役割分担を明確にしたことで、職員間の連携が図りやすくなったとの声が現場から寄せられている。これも専門職の加入にともなうメンバーシップ向上の効果と考えられる。事業所では来年度の報酬改定の行方をにらみながら新たなサービス提供体制の構築に向けた準備を進めているが、これまで実践を積み重ねてきた運動療育は、今後も事業所の療育の軸として子どもの可能性を広げ続けていくものと思われる。		

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

多くの利用希望者が待機している状態にあったため、少しでも利用者を増やして早期の療育につなげるとともに、事業収益の向上を図ることを目的に、前年度までは隔週で営業していた日曜日を毎週開くことを目標に据えた。まずは待機者リストのアップデートとセグメントをおこなったうえで、日曜日の毎週営業を可能とするための人員の補充に取り組んだ。

目標の設定と取り組み	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

前年度に常勤職員を2名採用し、人員体制を整えたうえで、今年度10月より日曜日の毎週営業の開始に向け、利用希望者との契約手続きを進めている。今後、職員一人一人のキャリアアップに向けた意向を把握するとともに、成長に向けた課題を育成責任者と共有し、組織として支援していく仕組みの検討が期待される。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している 評点(〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	◎ あり ○ なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
	◎ あり ○ なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○ 非該当
	◎ あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
	◎ あり ○ なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当
	サブカテゴリ1の講評		
	新規利用の主たる窓口になっている法人のホームページのさらなる充実が期待される 利用希望者からのアクセスで最も多いのは運営法人のホームページ経由の問い合わせとなっている。ホームページには当法人の運営理念と療育の中心である運動療法の目的等を案内している他、対象となる子どもの生活上のつまずきや行動、傾向等を具体的に例示している。問い合わせフォームから質問を受け付け、管理者が対応している。今後、事業所の利用定員やサービス提供エリア・提供時間等の基本情報と併せ、受給者証の取得方法を含む利用に必要な手続き等を掲載することで、新規利用者の利便性をより一層高めることが期待される。 市が毎年作成する冊子に事業所の情報を掲載している他、関係機関に情報を提供している 地元自治体が市内の障害児・者通所施設を紹介する冊子を作成し、希望者に配布するとともに、ホームページからダウンロードできるようにしている。当事業所も所定の様式でサービスの特徴等を掲載している。また、市の子育て応援サイトの児童発達支援事業所の紹介ページにも当事業所より提供した情報が掲載されているが、一部、古いままになっており、現状への更新が望まれる。以前は年数回開かれる市内の障害児通所支援事業所の連絡会に管理者が参加し、事業所のチラシを会場で配布したこともあったが、現在はリモートでの開催が中心となっている。 体験利用や見学の申し込みを随時受け付け、子どもの状況等を踏まえて対応している 現在は利用定員を充足しており、多くの利用希望者が待機している状態にある。見学や体験利用の申し込みは随時受け付けており、児童発達支援管理責任者(以下、児発管)を兼務する管理者が保護者から子どもの状況等を聞き取ったうえで、その子どもの支援ニーズに近いと思われるクラスでの体験を案内している。児童発達支援ではクラスの定員が少なく、通所している子どもへの影響等を踏まえて、体験利用の受け入れを一枠につき1名までとしている。希望のクラスに空きが生じた時点で保護者に連絡し、改めて利用の意思を確認している。		

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	4. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当	
サブカテゴリ-2の講評			
サービスの開始にあたり、利用契約書類に沿って重要事項を保護者に個別に説明している サービスの開始にあたり、児発管が利用契約書及び重要事項説明書の内容を保護者に説明し、同意を受けただうで、双方が署名・捺印をした書面を取り交わしている。また、契約書別紙において、それぞれ受給者証に記載された支給量の範囲内で利用する曜日や時間帯を定め、途中で変更があればその都度、保護者の同意のもとで差し替えをおこなっている。その他、保護者が療育の様子を窓越しに見学するために設けられたブースの壁に、児童発達支援・放課後等デイサービスの利用における注意点をもとめた文書等を掲示している。 利用契約時の面談を通じて子どもの支援に必要な情報等を所定のシートに集約している 利用契約を結ぶ段階で保護者に療育に必要な子どもの情報を所定の様式に記入してもらい、提出を受けている。その書面には医療面の情報や興味・関心、主なコミュニケーションの手段、身辺自立の状況等の他、療育に対する子ども及び保護者の希望を記載する欄が設けられている。子どもの個別の状況及び保護者の希望を踏まえ、面談での話し合いを通じて、利用するクラスを決めている。今後、保護者の了解のもとで、子どもが通う保育所や幼稚園、小・中学校等の関係機関から必要に応じて子どもの情報を入手し、療育の参考とする取り組みの検討が期待される。 初めて通所する子どもの不安や、移行先での支援の継続性に配慮した取り組みがある 新規利用の子どもを受け入れる際、あらかじめ保護者より入手した情報をもとに、子どもが好きなキャラクター等が描かれた手作りの絵カードで迎えたり、「始まりの会」で他の子どもに紹介するとともに、その日にどんな活動をするのかをていねいに説明し、初めての子どもが見通しを持って参加できるように配慮している。また、同じくらいの年齢の子どもや職員と一緒に楽しく遊ぶ場所としての雰囲気づくりに努めている。サービス終了時は支援の継続性の観点から、保護者や相談支援事業所等の関係機関からの求めに応じて療育の経過等の情報を提供している。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 11/11
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子ども一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもや保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 計画を子どもや保護者にわかりやすく説明し、同意を得ている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○ 非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしきみがある	○ 非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当
サブカテゴリ-3の講評		
子どもに対する支援課題の明確化を図るためのアセスメント様式の検討が期待される 療育に必要な子どもの情報を個別のフェイスシートに集約し、職員間で共有している。初回は保護者が所定の様式に記入した内容を利用契約時の面談で確認しながら、児発管が必要な内容を追記し、利用開始後に子ども及び家庭の状況等に変化があった場合は、その都度、内容を変更している。今後は総合的な支援を見据えたアセスメント項目のさらなる充実と併せ、当事業所の療育の軸である「運動・感覚」領域を中心に、国の示す5つの領域において個別の支援課題の明確化を図るためのより詳細なアセスメント様式の開発に向けた検討が期待される。		
子どもの状況を踏まえて保護者と面談し、個別支援計画の作成、見直しをおこなっている 個別支援計画を立てる際は児発管が初回はフェイスシートから、見直しの際は療育を担当する職員が観察した子どもの様子や保護者との面談から子どもの状態を把握し、子どもと保護者のそれぞれの希望を踏まえて支援ニーズを抽出している。個別支援計画の目標は通常は6か月を目安に立てているが、子どもの状況の変化等を踏まえて保護者と面談のうえ、必要に応じて見直しをおこなっている。理学療法士等の専門職を配置する中で、今後は支援課題を抽出する過程において、専門性に裏付けられた順位付けの根拠のより一層の明確化を図ることが期待される。		
日々の活動前後のミーティングで子ども一人一人の状況等を職員間で共有している 一日の活動終了後の職員ミーティングで子ども一人一人の様子等を振り返り、個別の支援目標に対してできたこと、気付いたこと等をその場で所定のシートに入力している。そして、次回の活動前のミーティングで、そのシートを職員同士で読み上げ、必要に応じて前回対応した職員からの補足説明を受けて、子どもの状態や目標達成の状況等の共有を図るとともに、その日の活動の中での個別支援に活かしている。児発管は日々のミーティング等の場で個別支援計画の内容について職員に説明を行い、周知を図っている。		

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 日常の支援の中で、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(子どもが「ノー」と言える機会を設けている)	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 施設内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○ 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の使用目的等を明示し同意をとっている他、プライバシーの保護に努めている 利用者から預かった個人情報及び肖像権について、使用の目的や条件等を保護者に書面で明示し、同意の意思確認をおこなっている。子ども同士が同じ保育所や幼稚園、小・中学校等に通っているなど顔見知りの関係にある場合もあるため、保護者の気持ちも踏まえて、プライバシーの保護に努めている。保護者が療育の様子を見学するために固定式のパーテーションで仕切られたブースが設けられるとともに、事務室内の相談コーナーには使用時に移動式のパーテーションが設置され、保護者との個別面談等の場面でプライバシーを守る環境が整備された。 子どもの羞恥心や自尊心に配慮し、課題や年齢等を踏まえた対応をおこなっている 通常の発達段階に沿った身辺自立や発音・発語、協調運動等に課題がある子どもが集団の中で羞恥心を抱くことのないように、マンツーマンに近い体制で職員がフォローしている。クラスは同じくらいの年齢で、かつ支援課題が近い子どもで構成しているが、臨時の振り替え等で年齢の離れた子どもがクラスに入ることもあり、その場合、高齢児であれば、職員を補佐する形で他の小さい子どもをリードする役割を与えるなど、自尊心に配慮した対応をおこなっている。今は利用児の男女比は圧倒的に男児が多い。排泄や衣類の着脱の支援は同性介助を原則としている。 子どもが苦手意識を克服し、自己肯定感を高めるための療育を基本としている 子どもの苦手意識を克服し、自己肯定感を高めることを療育の基本的な方針に掲げている。4人程度の小集団を対象に、鬼ごっこやかくれんぼ、マット・跳び箱・鉄棒・バランスブロック等の用具を使ったサーキットやボール遊びなどの粗大運動を中心としたプログラムを通じて、子どもが楽しみながら体の使い方を覚えたり、ルールのある遊びを楽しめるように工夫している。その日の「始まりの会」で、子どもからの提案をもとに遊びのメニューを変更することもある。職員は子どもの意見表出や子ども間の意見調整も重要な支援機会として捉えている。			

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(○●)		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○ 非該当
サブカテゴリ-6の講評		
日常業務及び緊急時の対応マニュアルを整備し、職員間の共有化を図っている 新入社員に対する研修資料に事業や療育、発達障害に関する一般的な説明の他、事業所としての職員の行動規範や療育の目的、一日の活動の流れと目的等を掲載している。また、利用者からの相談・苦情対応や子どもに対する虐待の疑いを発見した場合の組織対応に関するマニュアルの他、事故や感染症、自然災害、火災、不審者等が発生した場合の対応についてのマニュアルを整備し、ファイルに綴じて事務室内の書庫に保管している。虐待対応については、外部研修に参加した職員による伝達研修を3回に分けて実施し、全体共有を図っている。 各マニュアルの担当者を中心とした定期的な見直しに向けた取り組みが望まれる その日の療育の前後に職員ミーティングを行い、活動の確認や振り返り、出席児童一人一人の様子と個別支援計画に基づく目標の達成状況等を確認している。その中で、子どもに対する職員の不適切な対応等があれば確認し合い、是正に向けて事業所の療育の基本方針の確認等をおこなっている。今回実施した利用者調査では、職員による対応の違いを指摘する声の一部の保護者から寄せられており、職員ミーティングでの検討を通じて問題点の把握を行うことが期待される。また、各マニュアルの担当者を中心とした定期的な見直しに向けた取り組みが望まれる。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 18/20
1 評価項目1 個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている	評点(○○●)
評価	標準項目
● あり ○ なし	1. 個別の支援計画に基づいた支援を行っている ○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもの特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している ○ 非該当
○ あり ● なし	3. 関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって、支援を行っている ○ 非該当
評価項目1の講評	
子ども一人ひとりの発達や運動能力に応じた個別支援計画に基づいて支援している 児童発達支援は未就学児が対象、一方、放課後等デイサービスの対象は、小学校から高校に就学する障害児(いずれも重症心身障害児を除く)としている。「運動学習支援教室」と位置付けて、1回50分間の運動療育として、主にマットや跳び箱、鉄棒、平均台、飛び石、ボール等の運動遊具を用いた粗大運動をおこなっている。ゲーム感覚で運動をおこなうことにより、個々の子どもの苦手な体の動きを段階的に改善できるような個別支援計画を作成し、年齢や特性を考慮して構成された小グループの中で、一人ひとりの状態に応じた働きかけをおこなっている。 運動面と情緒面の成長を目指し、個々の子どもの目標を意識して子どもを支援している 運動療育を通して運動面と情緒面の成長を促している。個別支援計画においては、運動と情緒の両面に関して、例えば、「狙った場所にジャンプできるようになる」、「気持ちを言葉で伝えることができるようになる」等の具体的な支援目標を3つ設定し、それぞれ具体的な手立てを記している。支援目標はクラス別の情報シートに転記され、毎日のクラス開始前のミーティングで、前回の取り組み状況が記された情報シートを基に、その日の担当指導員全員で本日の働き掛けを確認し、終了後のミーティングでは本日の取り組み状況を共有・確認している。 子どもの所属機関等と連携することで、より効果的な支援がおこなわれることが望まれる 市の児童発達支援事業所の連絡会は年2～3回行われ参加しているが、現在はリモートでおこなわれ、連絡事項の共有に留まっている。児発管が特別支援学校の学校公開期間に学校を訪問したり、市の子ども発達センター通園事業の公開保育を見学しているが、日常的に教育機関や福祉関係機関等と連携する機会はない。1回50分間の運動療育での支援がより効果的におこなえるようにするためにも、保護者の了承を得て、子どもの所属する学校や幼稚園、他のデイサービス等と、子どもの様子や課題、取り組みの成果等の情報を共有し、連携することが望まれる。	

2	評価項目2		この評価項目は入力できません	
	【食事の支援がある事業所のみ】子どもが食事を楽しめるよう支援を行っている			
	評点()			
	評価	標準項目		
	○ あり ○ なし	1. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	○ 非該当	
	○ あり ○ なし	2. 子どもの状態やペースに合った食事となるよう、必要な支援(見守り、声かけ、食の形態や用具の工夫等)を行っている	○ 非該当	
	○ あり ○ なし	3. 子どもが安全に食事をとれるよう取り組みを行っている	○ 非該当	
	○ あり ○ なし	4. 食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している	○ 非該当	
○ あり ○ なし	5. 食についての関心を深めるための取り組みを行っている	○ 非該当		
○ あり ○ なし	6. 子どもの状況をふまえ家庭での食事について助言を行っている	○ 非該当		
	評価項目2の講評		この評価項目は入力できません	

3	評価項目3 子ども一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている			評点(○○○○●)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 身の回りのことは自分でできるよう、必要な支援を行っている		○ 非該当
	●あり ○なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等（あいさつ、マナー、交通ルール等）を身につけられるよう支援を行っている		○ 非該当
	●あり ○なし	3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている		○ 非該当
	●あり ○なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している		○ 非該当
	○あり ●なし	5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている		○ 非該当
評価項目3の講評 絵カード等の掲示により、子どもが見通しを持って自ら動けるように支援している 身の回りのことは自分でこなえるよう、入室から退室までの動線を作り、各所でおこなう動作、例えば「靴を靴箱に入れる」、「荷物をロッカーに入れる」等のマナーを、絵と文字で記したカードを掲示している。手洗いうがいが習慣化されている。療育の前後には「始まりの会」と「終わりの会」をおこない、その日の当番の子どもが進行役となって、ホワイトボードに掲示された内容を確認している。ホワイトボードには、子どもや指導員の顔と活動内容等が絵カードで掲示され、50分間の活動の流れが見通せるようになっている。 個を意識した小集団活動により、子どもの心身の発達や社会性が育つように支援している 鬼ごっこやドッチボール等の小集団活動は、ルールや協力し合うこと等を学ぶ機会としている。他者が嫌がる行為に対しては、徹底して声を掛けるようにしている。療育における指導員は、主導する指導員と補助に当たる指導員とで構成され、ほぼ子どもと同数に近い指導員が支援にあたっているが、各指導員はそれぞれのクラスにおいて、その日特に気に掛ける子どもを決めて、個を意識して支援している。運動療育においては、スモールステップで子どものやる気を落とさないよう、取り組めたことに対してたくさん褒めて次のチャレンジに繋げるようにしている。 子ども単独での通所の支援を必要に応じて計画に位置づける方向での検討が期待される 子どもの送迎は基本的に保護者がおこなっている。療育室には子どもから見えないように保護者が療育の様子を観察できるブースが設けられており、療育の間、そこで過ごす保護者もいる。子どもの送迎で保護者が近隣の時間貸し駐車場を利用する際は、事業所が料金を負担している。放課後等デイサービスの子どもの一人が帰る必要がある場合は、事前の協議により、子どもが事業所を出た時点で保護者に連絡をしている。今後、将来の自立等に向けた支援の一環として、子ども単独での通所の支援を必要に応じて計画に位置づける方向での検討が期待される。				
4	評価項目4 子どもの健康を維持するための支援を行っている			評点(○○)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している		○ 非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている		○ 非該当
評価項目4の講評 フェイスシートで基本的な健康状態を把握し、必要に応じて更新している 子どもの健康状態については、利用開始時に保護者が提出するフェイスシートで把握している。平熱やてんかんの有無、食事の提供はしていないが食物アレルギー、服薬、体調が悪い時のサイン等について確認している。保護者からの申し出や面談の際に得た新たな情報は、赤字で書き加えたり線を引いて消したりしている。発達に関するクリニックに通院している子どもは複数おり、保護者との面談の際に、保護者から発達検査の結果を示されれば、療育支援の参考になっている。 持病のある子どもの保護者とは、密に連絡を取り合って支援している 持病のある子どもについては、予め保護者から対応方法を聞き取った上で、毎回、療育の前後等に保護者とこまめに連絡を取り合っており、いざという時には、保護者とすぐに連絡が取れるように努めている。救急搬送先に指定がある場合は、目立つように個別ファイルのトップページに表示している。鬼ごっこ等の小集団活動で子ども同士が接触した際にけがをしないように、保護者に対して、爪が伸びていないか確認してほしい旨を玄関に貼り出して注意喚起している。				

5 評価項目5 子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 日常生活の支援は子どもの主体性を尊重して行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの状況や希望に沿って、多様な体験ができるようにしている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 【放課後等デイサービス】 子どもの状況に応じて利用日や利用時間を設定している		○ 非該当
評価項目5の講評			
運動遊具を用いた粗大運動の他に、子どもの要望等に応じた集団遊びを取り入れている 50分間のプログラムの中には、運動遊具を用いた粗大運動の他に、子どもの希望や状態に応じて、かくれんぼや鬼ごっこ、ドッジボール等を取り入れている。観察した日には、子どもの要望に応じて粗大運動を少し早く切り上げて、皆でかくれんぼやルールを簡単にしたドッジボールを楽しんでいた。自分が提案した遊びを、指導員も含めた全員で楽しめる喜びを感じている様子が見られた。上手くできない運動について、助けてほしいと言い出せない子どもには、敢えて難しめの課題を提示して、助けてほしいと表現できる機会を作る等の工夫をしている。 子どもの主体性を尊重した活動が楽しくおこなわれるよう、安全に配慮している 活動の部屋は、板張りの床に、周囲はほとんど凹凸のない壁に囲まれていて安全だが、子どもたちが勢いよく走り回る場面では、指導員は四隅に立って子ども同士がぶつからないように見守っている。子どもたちの好きなキャラクターを用いて、活動への興味を引きだしたりしている。利用者アンケートの「職員は子どもの気持ちを大切にしながら対応してくれているか」の問いに、児童発達支援の保護者は100%、放課後等デイサービスの子どものおおよび保護者の90%以上が「はい」と回答し、子どもの主体性を尊重した活動がおこなわれていることが見て取れる。 子どもの年齢や特性、保護者の希望等に配慮してクラスを編成している 平日は14時から1時間単位で5クラスを、土・日曜日は朝から運営している。春・夏・冬の長期休校日の時間設定も同様である。毎年10、11月に、来年度の希望曜日や時間のアンケートを取り、年齢や特性等を考慮してクラスを決めている。学校の行事等で決められた日時に通所できない場合、事業所と保護者間で用いているSNSで空き情報を流し、本人や保護者の条件が合えば振替利用に応じている。通常、クラスは年齢差の小さい子どもで構成されているが、振替利用で年齢さの大きい子どもが触れ合うことで、いつもとは違う効果が表れることもある。			
6 評価項目6 家族との交流・連携を図り支援を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どものサービス提供時の様子や家庭での普段の様子を家族と情報交換し、支援に活かしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 家族の意見や要望を活かした支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 家族の状況に配慮し、相談対応や支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもや家族に合った療育方法等について助言している		○ 非該当
評価項目6の講評			
活動前後の保護者との会話で、子どもの変化を捉えて支援に活かしている 子どもが来所した際、指導員は、子どもが笑顔なのか、不機嫌な表情なのか等を見ながら保護者と会話を交わして、子どもの様子を把握している。子どもに変化が見られた際は、その都度保護者と共有し、声掛けや対応等の仕方等に活かしている。保護者は別室で子どもの活動の様子を観察できるが、後ほど迎えに来る方もいる。活動の終了後には、その日の活動の内容と、個々の支援目標と照らし合わせて、できたことを中心に記入したサービス提供記録を見せながら保護者に説明・共有して、保護者のサインをもらっている。 家族間交流の試みの検討が望まれる 地域交流と保護者会について、年2回、その内容や開催時期等を組織で協議する機会を設けているが、保護者を集めた会合は2022年12月に1回実施したのみである。年2回の個別支援計画更新のための面談に当たっては、保護者に対して事前にアンケートを配付して、現在の課題や子どもと保護者の希望、成長を感じる点、支援に対する要望・質問等を尋ね、家庭や学校等所属先での子どもの様子を踏まえた面談になるよう努めている。子どもを通して事業所と保護者間が関係を深めるだけでなく、保護者同士の横のつながりが求められる。 事業所の専門性を活かした、家庭でできる取り組みや子育て支援が望まれる 児童発達支援利用者アンケートにおいて「家族に対する精神的なサポートは役に立っていると思うか」という質問に、「はい」と回答した保護者は6割を切り、2割弱の方が「いいえ」と答えている。子育てに関する悩みを聞いてもらっているという声がある一方、悩みを話す機会や家族間交流はないという声もある。運動プログラムの目的や指導法等について知りたいという意見も散見される。子育てに関する悩みに対するワンポイントアドバイスや、運動プログラムに関する簡単なQ&Aを作成して掲示、もしくは定期的に提示する等の保護者支援が望まれる。			

7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)・非該当1
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている	☐ 非該当
	☐ あり ☐ なし	3.【児童発達支援センター】 地域全体の在宅障害児や関係機関等を対象に、施設・設備や人材・プログラムを有効に活用した支援を実施している	☒ 非該当
評価項目7の講評			
スポーツフェスティバルの継続等、地域資源の活用や地域との積極的な交流が望まれる 地域の情報収集や提供、資源の活用には消極的だが、昨年度は1回、キッズスポーツスクールの運営会社と共同して、4歳～12歳までの子どもを対象としたスポーツフェスティバルを、課外活動で利用している地域のスポーツ施設で開催した。このイベントは、障害を持たない子どもを含めた多様な子どもたちと関わる機会となった。その他には、通所する子どもの保護者が主要メンバーの一人である子育てサークルのチラシを事業所で配付したことがある。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	災害時の避難場所の提供やイベント開催を通じて、地域福祉に貢献する取り組みがある	
内容①	事業所では、事業の運営形態やサービス提供方法を鑑みると、ボランティアや実習生を受け入れる体制は難しいと考えている。しかし、地元自治体より二次避難所としての指定を受け、災害時に障害を持つ児童が安心して避難できる場所の提供をおこなっている。また、他の団体と共同して、健常児と障害児が一緒にスポーツを楽しむイベントを開催するなど、地域貢献に向けた取り組みを進めている。事業所の有する機能や専門性を活かしながら地域の福祉に貢献する取り組みとして評価できる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	活動前後のミーティングで、子ども一人ひとりの状況等を職員間で共有し、支援している	
内容②	子どもの基本的な情報、および発達全体像は、個別のフェイスシートにまとめられ、内容に変更があった際は、その都度、朱字で記入している。一日の活動終了後には、子ども一人ひとりについて職員間で振り返りを行い、個別の支援目標に対して出来たこと、気付いたことを、その場で「子ども一言情報」シートに記入し、共有化を図っている。翌週の活動前の職員ミーティングでは、このシートを読み上げ、必要に応じて前週に対応した職員が補足説明して、子ども一人ひとりの状態や目標達成度等を確認したうえで活動を開始し、個別支援に活かしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者の要望へのマッチングとともに他との差別化を図る取り組みをスピード感を持って展開する中で、サービスの強みを形成している
	内容	当事業所は運動療育を軸に子どもの苦手意識の克服を図るとともに自己肯定感を高め、もって子どもが持っている可能性を広げることを理念に謳っている。利用者の要望へのマッチングとともに他との差別化を図るために、週末の営業や外部の関係機関と連携して子どもの社会性や経験の幅を広げる取り組みをスピード感を持って展開する中で、サービスの強みを形成し、保護者の高い満足度を維持している。現在、多くの利用希望者が待機している状態にあり、週末の営業日の拡大等によって、できるだけ早期の療育につなげようとしている。
2	タイトル	子どもの発達課題を踏まえ、子どものできることに焦点を当てた支援を展開している
	内容	発達性協調運動障害のある子どもは、極端な不器用さから劣等感を抱え込む場合もあり、事業所では子どものできることに焦点を当て、それを少しずつ増やしていきながら子どもの自信を高めていく支援を展開している。運動療法をメインとした「運動学習支援施設」であることを謳いながらも、支援の基本は子ども一人ひとりの発達課題を踏まえた個別の療育であることを職員ミーティング等で確認している。常勤の理学療法士に加え、子どもに対するカウンセリングの機能の充実を目指して非常勤の心理職を配置し、専門性の強化を図っている。
3	タイトル	日々のミーティングを通じての情報共有や業務の役割分担の明確化等を通じて職員間のチームワークの強化を図っている
	内容	一日の活動終了後の職員ミーティングで子ども一人一人の様子等を振り返り、個別の支援目標に対してできたこと、気付いたこと等を確認している。そして、次回の活動前のミーティングで、子どもの状態や目標達成の状況等の共有を図り、その日の活動での個別支援に活かしている。今回実施した職員の自己評価では、業務の役割分担を明確にしたことで職員間の連携が図りやすくなったとの声が寄せられている。実際のミーティングや療育の場面観察から、職員間のチームワークが機能し、事業所の強みを形成している様子が確認できた。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員一人一人の意向の踏まえたキャリアアップと専門性の向上を組織としてバックアップする仕組みの検討が期待される
	内容	自己啓発を職員研修の基本に据え、外部研修の受講について様々な便宜を図っている。今後、職員一人一人のキャリアアップに向けた意向を把握するとともに、成長に向けた課題を育成責任者と共有し、組織として支援していく仕組みの検討が期待される。また、都内に4か所の障害児多機能型事業所を展開する法人全体で専門職同士のノウハウの共有やスキルアップを図るとともに、リーダー層の計画的な育成に向けた仕組みの検討を進めることが望まれる。
2	タイトル	総合的な支援を見据えたアセスメント項目のさらなる充実と、個別の支援課題を抽出する際の専門性に裏付けられた根拠の明確化が期待される
	内容	療育に必要な子どもの情報を個別のフェイスシートに集約し、職員間で共有している。初回は保護者が所定の様式に記入した内容を利用契約時の面談で確認しながら、児童発達支援管理責任者が必要な内容を追記し、利用開始後に子ども及び家庭の状況等に変化があった場合は、その都度、内容を変更している。今後は総合的な支援を見据えたアセスメント項目のさらなる充実と併せ、個別の支援課題を抽出し優先順位をつける際の専門性に裏付けられた根拠の明確化を図るために、より詳細なアセスメント様式の開発に向けた検討が期待される。
3	タイトル	地域の関係機関の連携のもとで、整合性のある面的な支援体制の構築に向けた協議を進めていくことが望まれる
	内容	児童発達支援管理責任者は利用児が通う特別支援学校の公開期間に学校を訪問したり、市の子ども発達センターの通園事業の公開保育の見学等に積極的に出向いている。今後は保護者の了承を得たうえで、子どもが通う保育園や幼稚園、小・中学校の他、他の民間の障害児通所事業所等と子どもに対する支援課題や取り組みの状況等の情報を共有し、連携を図ることで、相互に整合性のある支援を提供する体制の整備が期待される。相談支援事業所を含む地域の関係機関の連携のもとで、面的な支援体制の構築に向けた協議を進めていくことが望まれる。